

1800/2800/3800 AP のラグ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

概要

この資料はイーサネットおよび AUXポートを渡るリンク 集約 (ラグ) の 1800/2800/3800 Access Point (AP) の設定の手順を取り扱っています。 使用されるラグ プロトコルは LACP またはモードのどれつく場合もあります。 同じ config は 1800 シリーズ AP にまた適用します。

ラグ (802.1X 無しおよび MAC アドレス 認証無し) を使用している場合 8.4 ソフトウェア バージョンの時点で、アクセス ポートの保護の手段 (方法) が無いことに注目して下さい。

前提条件

AP の次の Ciscoスイッチング シリーズサポート ラグ:

- Catalyst 3850/すべてのモデル (非- CA モード)
- Catalyst 3650/すべてのモデル (非- CA モード)
- Catalyst 4500/Sup - 8E
- Catalyst 6500/Sup 720 またはより新しい

- Nexus シリーズ

ラグ機能がコンバージした Access (CA) のためにまだサポートされていないことに注目して下さい。 機能拡張 不具合 [CSCvc20499](#) は これのためにファイルされました。

使用するコンポーネント

設定は 1832、1852、2802 のおよび 3802 AP に適用されます。 この設定例 2802 に関しては AP は使用されました。 使用されたスイッチはソフトウェア バージョン 03.06.05E を実行する WS-C3650-48PQ でした。 AP は 8.2.141.0 の 2504 に加入されました

ネットワーク図

2802 AP-----3650 switch-----2960 switch----2504 WLC

AP およびワイヤレス LAN コントローラ (WLC) は VLAN 1 にあります

AP のギガビットポートはスイッチポート g1/0/10 に行き、AUXポートは g1/0/9 に行きます

設定

ステップ 1

スイッチにギグポートだけ接続して下さい。AP ギグポートすなわちギグ 1/0/10 に行くスイッチポートを設定して下さい (ケースで)

GigabitEthernet1/0/10 をインターフェイスさせて下さい

```
switchport mode access
```

```
end
```

ステップ 2

AP が WLC に登録したら、WLC コマンド・ラインから次のコマンドを実行して下さい。

```
config ap lag-mode support enable
```

(これはラグをサポートする AP の再度ブートするという結果に終わりません)

このコマンドは WLC の AP ラグ モードのためのサポートをグローバルに有効にします。WLC の AP ラグ モード サポートの現在のステータスをチェックするためにコマンド「show ap ラグ モード」を実行して下さい。

AP ラグ モードのためのサポートをディセーブルにするために「構成 ap ラグ モード サポート ディセーブル」を使用して下さい (これはラグをサポートするすべての AP の再度ブートするという結果に終わります)

```
config ap lag-mode support enable <AP name>
```

(これは AP の再度ブートするという結果に終わります)

このコマンドは AP のラグ モード サポート自体を有効にします。

このコマンドを有効にする場合「show ap 構成一般の <AP name>」コマンドで AP ラグ構成ステータスが「ディセーブルに」から「有効にされる」に変更されたことがわかります。

AP ラグ設定ステータスは.....有効になりました

AP のラグ モードをディセーブルにするために「構成 ap ラグ モード サポート ディセーブル <AP name>」を使用して下さい (これは AP の再度ブートするという結果に終わります)

ステップ 3 :

AP およびコントローラへのラグポートのロード バランシングに関しては、スイッチはレイヤ4 (L4) 送信元ポート および 宛先ポートのロード バランシングをサポートする必要があります。スイッチ コンフィギュレーションモードから次のコマンドを実行して下さい。

```
port-channel load-balance src-dst-port
```

1 つが L4 ポート ロード バランシングを設定しなければたとえば (この機能をサポートしない) 使用するときスイッチ モデルをそれからポート チャネルまでアップするしかしすべてのトラフィックは同じ ポートを通過します。 1 つに速度の 2 ギガビットがありませんが、そこに冗長性です。

ステップ 4 :

この場合両方のスイッチポートを (g1/0/10 および g1/0/9) EtherChannel に設定し、他のスイッチポートすなわち g1/0/9 に AP AUXポートをプラグインして下さい。この時点でスイッチに接続される AP ギグおよび AUXポートが両方あります。

```
interface GigabitEthernet1/0/10
switchport mode access
channel-group 1 mode active
end
```

```
interface GigabitEthernet1/0/9
switchport mode access
channel-group 1 mode active
end
```

```
interface Port-channel1
switchport mode access
end
```

LACP の代わりにモード " on " を使用したいと思う場合スイッチポートの下でコマンド 「 channel-group 1 モードの 」 を使用して下さい。

どのそれ以上のコンフィギュレーション変更でも portchannel インターフェイスを通して (トランキングするために移動しサポートされたバンを追加します) 今後はなければなりません。

検証

コントローラおよび AP のラグ設定の状態はコントローラの次のコマンドを使用して参照される場合があります:

```
show ap lag-mode
ラグ モード サポートは.....有効になりました
```

```
show ap config general <ap-name>
AP ラグ設定ステータスは.....有効になりました
AP のためのラグ サポート.....はい
```

ラグが「いいえ」とどまることをとして「サポートするのを見ない場合、DTLS データ暗号化が有効になるという理由によるかもしれません。ラグは DTLS データ暗号化と共にサポートされません。

AP とスイッチ間のラグの正常な形成はスイッチの次のコマンドを使用して見られる場合があります:

```
sh etherchannel summary
```

使用中のチャンネルグループの数: 1

集約機能の数: 1

グループ Port-channel プロトコルポート

-----+-----+-----+-----

1 つの Po1(SU) LACP Gi1/0/9(P) Gi1/0/10(P)

```
show lacp neighbors
```

チャンネルグループ 1 ネイバ

パートナーの情報:

LACP port Admin Oper Port Port

Port フラグ 優先順位 Dev ID 経過時間 キー キー番号状態

Gi1/0/9 SA 32768 00f2.8b26.90b0 14s 0x0 0x300 0x1 0x3D

Gi1/0/10 SA 32768 00f2.8b26.90b0 0s 0x0 0x300 0x0 0x3D

```
show lacp internal
```

チャンネルグループ 1

LACP port Admin Oper Port Port

Port Flags State Priority Key Key Number State

Gi1/0/9 SA bndl 32768 0x1 0x1 0x10A 0x3D

Gi1/0/10 SA bndl 32768 0x1 0x1 0x10B 0x3D